

# 宗教音楽と教化

西口玄修

## はじめに

国歌、校歌、社歌などは、歌う人数が多いほどより帰属意識が高まり、外側に存在をアピールする効果がある。ヨーロッパ・キリスト教社会では教会と音楽は、切っても切れない。ミサ曲・レクイエム・教会カンタータ等は、典礼儀式の荘厳さを演出し、賛美歌は、ともに歌うことで信仰を感化する。

## 伝統的な仏教音楽

仏教においても、民族性や歴史を反映した多くの種類のものがあるが、(チベットやタイに顕著) 一般に大乘仏教が音楽性に富んでいて、寿量品偈にも「諸天撃天鼓 常作衆伎楽」とある。

一番身近なのは、儀式で用いられる声明(浪曲、演歌のルーツともいわれる)

信徒が、仏教の教義や仏・菩薩(ぼさつ)あるいは高僧の徳などを、和語で讃える和讃。寺院・霊場巡礼の際に鈴(れい)に合わせて唱えることが多い御詠歌。

これらは、十六世紀ころにはすでに存在していたといわれる。

## 近代

明治期に入り、キリスト教の賛美歌に刺激されて西洋音楽の様式で作曲された歌による布教伝道が開始された。唱歌に始まり、讃仏歌（さんぶつか）オペラ、カンタータ、交響曲にまで展開されていった。

仏教讃歌は、仏教に関する素養のある作曲家、作詞家によって、明治から今日に至るまで、盛んに作られ、現在まで三百曲以上（仏教曲・曲目リスト）の仏教讃歌がある。また、浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所（現・総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室）によって制作された、クラシック音楽演奏会用の「カンタータ歎異抄」などもある。

楽譜と歌詞が掲載された著作として、『聖歌・讃歌集』（全六巻＋こども編全二巻 浄土真宗本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室編、本願寺出版社）、『曹洞宗仏教讃歌集』（曹洞宗宗務庁）などがある。佛教大学、京都女子大学、龍谷大学、相愛大学、愛知学院大学、駒澤大学、武蔵野大学、大谷大学、立正大学、大正大学などの仏教系大学では仏教讃歌が入学式や卒業式などの行事の際に歌われる。また一部の大学の合唱団では、演奏会等でも歌われている。

## クラシック音楽の分野

管弦楽の分野では、貴志康一の交響曲「仏陀」がすでに戦前に作曲演奏されている。

貴志康一（一九〇九～一九三七）

一九三四年 ベルリンフィルハーモニーを指揮

自作の交響曲「仏陀」その他を演奏

## 1、交響曲「仏陀」

第一楽章 「印度 ♪父 ♪」

第二楽章 「ガンジスのほとり ♪母 ♪」

第三楽章 「釈尊誕生 ♪人類の歓喜 ♪」

第四楽章 「摩耶夫人の死」

以下は構想のみ

第五楽章 「生老病死 ♪青年時代 ♪」

第六楽章 「出家を決心す」

第七楽章 「成道偈」

貴志康一没後五十周年記念コンサート 交響曲「仏陀」ビクター音楽

戦後、大編成のオーケストラに混声合唱という大規模の作品が生まれる。

宗門の記念大会、教団のイメージアップのために作曲された。

## 2、交響頌偈「釈迦」(一九八九年) 伊福部昭

バレエ音楽「人間釈迦」から音楽を抜き出し、オーケストラと混声四部合唱のための作品として完成させた。

第一楽章「カピラバスの悉達多」

王子として貧しさも飢えも苦しきも知らない暮らしをしていた釈迦が出家するまで、

第二楽章「ブダガヤの降魔」合唱付き、

釈迦がブダガヤで悟りを得るために禪定に入る、パーリー語で数多くの煩惱が歌われる（貪 瞋 痴）。そんな煩惱の悪魔と戦う修行の様子は、この曲の聴き所のひとつ。襲い来る煩惱。男性合唱が悪魔の軍勢、女声合唱が悪魔の娘たちの甘美な誘惑を表現する。

第三楽章は、悟りを開いた釈迦を讃える。合唱付き

頌偈とは、「佛の徳を讃える歌」

ゴジラを作曲した伊福部の特長である土俗的雰囲気、人生苦を。リズムの高揚感が煩惱との戦いを現し最後は、仏陀への讃歌で終わる。

この曲は浄土宗東京教区青年会の委嘱により作曲され一九八九年の四月八日に行われた「釈尊降誕会（はなまつり）コンサート」に於いて初演された。

CD 二種類あり。

3、松下真一作曲 法華経によるカンタータ《佛陀》第一番、二番、三番

立正佼成会の委嘱により、法華経二十八品すべてを管弦楽と混声合唱、独唱、ナレーションにより、再現しようとする壮大な試み。

未完に終わったが、方便品 見宝塔品 壽量品は、FMラジオで放送されたのを、聞いた記憶あり。LPそれぞれ三枚組あり。入手困難

4、萩原朔太郎 作詞 木下牧子 作曲 「涅槃」 一九七六年?

木下牧子が、東京藝術大学作曲科の卒業作品として作曲。

花ざかりなる菩提樹の下

密林の影ふかいところで

かのひとの思惟にうかぶ

理性の、幻想の、情熱の、いとも美しい神秘をおもふ

涅槃は熱病の夜明けにしらむ

青白い月の光のやうだ

憂鬱なる 憂鬱なる

あまりにも憂鬱なる厭世思想の

否定の、絶望の、悩みの樹陰にただよふ

静かな月影

哀傷の雲間にうつる合歡の花だ

涅槃は熱帯の夜明けにひらく

巨大の美しい蓮華の花か

ふしぎな幻想のまらりや熱か

わたしは宗教の秘密をおそれる

ああかの神秘なるひとつのいめえち

——「美しい死」への誘惑

涅槃は媚薬の夢にもよほす

ふしぎな淫欲の悶えのやうで

それらのなまめかしい救世の情緒は

春の夜に聴く笛のようだ

花ざかりなる菩提樹の下

密林の影ふかいところで

かのひとの思惟にうかぶ

理性の、幻想の、情熱の、いとも美しい神秘をおもふ

## その他

管弦楽と合唱とソリスト群のための《交響曲第六番—シンフォニア・サンガ》…文化庁芸術祭優秀賞受賞（一九七四年）  
合唱のための《カンタータ・仏陀—第三番》…文化庁芸術祭優秀賞受賞（一九七七年）

合唱曲【編集】

「大いなる哉」（林古溪作詞、平井康三郎作曲）【交声曲】

「涅槃」(森正隆作詞、大中恩作曲)【交声曲】

「樹下燦々」(阿南知也作詞、清水脩作曲)【交声曲】

「廟堂頌」(長田恒雄作詞、清水脩作曲)【男声、混声】

「仏教徒の歌」(小林一郎作詞、山田耕笹作曲)【混声】

「聖徳太子の歌」(野口雨情作詞、山田耕笹作曲)【女声】

「生命の光」(大滝州代作詞、伊藤完夫作曲)【混声】

「善き友」(長田恒雄作詞、伊藤完夫作曲)【混声】

「遊化」(長田恒雄作詞、田中昭徳作曲)【混声】

## 日蓮宗関連では

1、昭和二十八年 佐野前光 作詞 宮城道雄 作曲 交声曲(カンタータ)「日蓮」

日蓮聖人の銅像が、福岡市東公園建立されて五十周年記念に作曲を慶賛会より委嘱される。

宮城道雄の祖父が熱心な日蓮宗の信者で、神戸市に説教所を設け、法華経を十年説教したといわれる。道雄は、幼年時代この説教所の裏に住み毎日お題目を聞いて育った。

楽器編成

箏 十七弦 胡弓 笙 尺八 打ち物 バリトンソロ 混声合唱

(伴奏用ピアノの譜面が出来れば、もっと普及するのではないかと思う)

日蓮聖人の末法濁世の世を救う機運到来を表す

二、黎明

比叡山での修行を終え、法華経を真実の教えと悟り、南無妙法蓮華経を高らかに唱えた。

三、予言

立正安国論の献上と国難の預言

四、受難

受難と法華経故の喜び

五、旋風

迫害に耐えての布教

六、自覚

佐渡流罪と法難の意味を自覚

七、静寂

身延山での静かなたたずまいと、池上でのご入滅

ここで、お題目が独唱の背景音楽とし、合唱によりクライマックスに導く。

—レコード裏面 吉川英史の解説を参照—

2、昭和五十六年 西川 満 作詞 黛 敏郎 作曲 オラトリオ（聖譚曲）日蓮聖人

七百五十遠忌事業にて初演され、平成二十五年に藻原寺により再演。DVD化



## 一般向け

3、三波春夫 大日蓮 昭和五十三年 入手困難

4、日蓮大聖人讃歌 たちばなの譜 企画 堂坂義臣

作詞 堂坂義臣 作曲 池田四郎

5、合掌での光を 下津圭子(歌)

作詞 和田妙尚 作曲 小西悠史  
後援 身延山久遠寺 池上本門寺

推薦の言葉 日蓮宗管長 金子日威 協賛 日蓮宗新聞社

キングレコード制作

6、静岡中部宗務所委嘱 讃仏かぞえうた 作詞 峯 陽 作曲 小林秀雄

非常に親しみやすく歌詞も法華経の教えが、平易に表現されている。残念ながら日蓮宗仏讃歌集には、入っていない。

ひとつとや ひとつとは容姿こそ違っても 心はひたすら み仏に

ふたつとや ふしぎなものです 信心は この世の花を実らせる

みつとや みんなが一人のためになり 一人がみんなのためになる

以下略

7、昭和五十六年七月 日蓮宗仏教讃歌集（楽譜） 池田四郎氏編集委員

各寺院に配布

8、平成六年 七百五十遠忌記念CD 日蓮宗の歌

この企画において、宗歌 四弘誓願などの仏讃歌CDを全寺院・教会結社に配布

イメージソング 今はとびたつとき 作詞 高橋純子 作曲 勝田佳代

歌 小坂明子

9、平成二十八年 仏讃歌CD

伝道部企画 ソプラノ 西口彰子

ピアノ 津島圭祐

日蓮宗新聞社

10、平成二十八年九月二十二日 仏讃歌奉納演奏

七月に開館した妙建寺あんのんホールにて

仏讃歌CD完成記念の演奏会を開いた。

ソプラノ 西口彰子

ピアノ 津島圭祐



お会式には、演奏家を招きコンサートを、催しますが、必ず宗歌、仏讃歌を入れ、集まった檀信徒とともに歌うようにしています。

宗門内には、合唱団を組織して教化活動されている寺院は多いと思うのですが、活動情報を公開して、もっと普及すれば、布教の一方方法として有効だと思われる。